

東日本大震災復興支援活動

～2014年度「SAGASO Cheering Project」活動記録～

4年目となった昨年度は「**小さな力が未来を変える**」をテーマに掲げ支援活動をおこないました。

昨年度もこれまでの活動内容と同様に**体育祭でのアイス販売**や**吹奏楽部定期演奏会での募金活動**、**橋本駅での街頭募金活動**などをおこない**638,506円**の義援金が集まりました。



集めた義援金を使って昨年度は岩手県宮古市立田老第一小学校に支援物資を贈りました。田老第一小学校は津波による直接的な被害はなかったものの、この小学校のある田老地区は、防潮堤が壊れたり、建造物が流されたりと甚大な被害を受けました。この小学校には防災ずきんや避難経路確認用の電動自転車、応援旗と応援メッセージ入りの色紙も贈りました。



また、昨年度は神奈川に避難してきている子供たちにも目を向けました。県庁を訪問し、相談したところよこはま・とどろき学習室を紹介していただきました。

この学習室は神奈川県に避難してきている小学生～高校生の子ども達を対象に、大学生がボランティアで個別に勉強を教えるという形態をとっています。

また、この学習室は同じ神奈川県内にあるということで今年の3月29日に横浜でおこなわれた卒業生を送る会に参加しました。子ども達と交流した後、実際に支援物資として、問題集・参考書を手渡ししました。

お礼として下の色紙をいただきました。



支援物資は提供していませんが、今年の3月9日には、守りたい子ども未来プロジェクトという神奈川に避難してきている子どもがいる家庭を支援している団体の交流会にも参加してきました。



各家庭に配られる情報誌に
交流会の様子が載りました。

私達の活動がタウンニュースに載りました。

これまでにご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。



4月9日のタウンニュース
さがみはら緑区版に載り
ました。

まとめ (プロジェクトリーダー 中里 虹太)

私は約1年間この活動をおこない、初めは、震災が発生してから3年が経過し皆さんの心の中から震災についての関心が薄れてきて、あまり義援金が集まらないのではないかと心配になりました。しかし、実際には募金をしてくださる方がとても協力的で、心のどこかには東北の方々を思う気持ちが残っているのだなと感じました。

また昨年度から始めた交流会でも、最初は私達のことを受け入れてくれないのではないかと不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、実際に会いに行くと私達のことを快く迎えてくれてとても嬉しかったです。

交流会の中で子ども達と触れ合っていて、笑顔はとても印象的でした。しかし、その笑顔の裏には一生懸命震災のことを乗り越えようと頑張っているのだなと感じました。そして、震災のことで苦しんでいる人はまだ多くいるのだなと改めて思いました。

このことから、今年度も交流会という形で活動を続けていきたいと思っています。これからもご協力をお願いします。

